

夕刊 磐城時報

行發日四十

編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
印刷 磐城時報社
發行所 磐城時報社
電話 一四七五
郵政掛號 第一四七五號
廣告料 一行十文字五錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

資本金二百萬円で 平鐵工業合同計劃 中流どころが反對

平鐵工業機械組合及び平鐵山機械を叫んで實現までには相當な困難があるものと見られてゐる。六名の業者が打つて一丸となり合同すれば政府から補助金がある。十三日組合員の懇談會を開いたが、合同の具体案には、四倉町會は今十四日午前九時より開き左の件を附議した。第十六區行政區長死亡に依り後任選出の件。一、上水道復舊工事の件。二、十五年度特別會計町上水道復舊工事の件。三、十五年度特別會計町上水道復舊工事の件。四、十五年度特別會計町上水道復舊工事の件。

平米穀商組合で 共精共販を實施 計劃委員十一名選任

平米穀商組合では去月二十九日總會で共同精米、共同販賣を實施する事に決し、實行委員三十名を擧げたが、委員中馬田玉彌、外四氏が先進地を視察した結果、十三日之が報告を兼ね協議し、遂に共精共販を實施する事となり、具體案起草委員、理事長菅本庄治、會計梅原利三郎、理事佐藤幸太郎、長瀬延太郎、外七氏を推した。右委員は十四日午前十時から第一回會合を開いた。

四倉町會召集 市役所の通牒が 六ヶ敷くて困る

平市町常會第六班では十三日夜常會を開き種々協議したが、市役所からの通知が依然として舊式に提はれ依命通牒式で官僚臭いばかりでなく女子供には判らぬ難解のものが多いので新体制に順應し簡易明瞭な方法に改めて貰ひ度いと平市常會最初の下意上達を行ふ事になつた。

市役所の通牒が 六ヶ敷くて困る 田町常會で下意上達

たとは新參の文藝部が、『君、駄目ぢやないか』なんて云ふと、『ふん、何さ、妾は頭が割れさうなのよ、新參のくせに生意氣なふな!』つてな譯で、新參の文藝部先生、あべこべにペンヤンと相成る。だから、かう云ふ時は文藝部の兄さんたちも、彼女等に對しては戦々兢兢としてゐる。怖るべきは、彼女たちの神經よくレヴェニー・ガールと、男優とが戀愛するが、かう云

豊作を豫想 司法保護 映畫延期

本縣聯合保護會主催司法保護委員事業費並に防犯の宣傳浪曲大八日開演の筈であつたが、北白川水久殿下御舞儀の爲来る三十日に變更した。

地区商業組合編成 あす理事長會議

平市商業聯合會では業種別自事務所各組合理事の協議會組合を廢し平市、豊間町外十五を閉くが現在平市の商業組合は分村より成る地區商業組合を組二十二組合で申請中のもの四組編する事になり十五日平市二町會合。

待望の釘配給 梨出荷見込つく

平市平産を始め石城郡大野、内は十八年前夫兵次郎氏と死別し、梨は最近二十世紀及び長十郎が現在に在るが、本年夏期中間中出廻り出した、本年は製作で十水水の賣上の利益金十三圓を昨萬箱が東京方面に向け出荷され十三日四倉町統後會にて寄附し、出廻りが、出廻りを控へ釘がたが、ヨネさんの心掛けに役場なく業者が困つてゐた處石城郡員一同は感謝してゐる。農會で縣に陳情した結果一箱につき十二圓の割で十五日配給される事になつたので業者がホッとしてゐる。

水水の利益 秋刀魚 初取引に注意

九月二十日待望の秋刀魚解禁日を前に小名、江名、四倉等の五十隻の本縣秋刀魚船は目下出航準備に大奮となつてをり、縣も亦出来るだけの援助を與へてゐる。

浅草の青春 (東京たより)

緒方生

たとは新參の文藝部が、『君、駄目ぢやないか』なんて云ふと、『ふん、何さ、妾は頭が割れさうなのよ、新參のくせに生意氣なふな!』つてな譯で、新參の文藝部先生、あべこべにペンヤンと相成る。だから、かう云ふ時は文藝部の兄さんたちも、彼女等に對しては戦々兢兢としてゐる。怖るべきは、彼女たちの神經よくレヴェニー・ガールと、男優とが戀愛するが、かう云

南支にて

野木丈男君通信

拜啓、疊中御見舞申上ます。其の後は御無音に打過ぎ海に失禮を致しまして何卒御容赦下さいませ、御家内皆々様には盛夏の折お慶り御座います。ぬか御伺ひ申上ます。小生此

水水の利益

九月二十日待望の秋刀魚解禁日を前に小名、江名、四倉等の五十隻の本縣秋刀魚船は目下出航準備に大奮となつてをり、縣も亦出来るだけの援助を與へてゐる。

たが、十二日縣經濟部から關係秋刀魚船主に對し、初陣をせざるなりの指令を發し絶対御視察相場を争はぬやう警告して來た。秋刀魚の初陣は北海道コクン島沖合五十里でスタートされるが、思ひ切つてはねあがる各魚市場の御視察と海の誇りから各船とも第一入港を争ひ、しかも本縣秋刀魚船は例年第一着を占め昨年の據釜市場の如きは初船江名清洋丸(船主佐藤徳太郎氏)を筆頭に第四着まで本縣船が占めるといふ優秀さ。

今年もまた御祝儀相場獲得(一尾八錢程度、普通相場三錢から三錢五厘)をめざして張り切つた矢先のこの足止めは縣林省が實施を急いでゐる鮮魚類の公定價格制定と關聯したもので、この指令から推して恐らく秋刀魚の公定價格決定は傳統の御祝儀相場をもつて飛ばして二十日の解禁前に實施を豫想される。

高見順がよく淺草の踊り子とを小説に書いてゐるがあれは殆んど全部が全部高見のレヴェニー・ガール觀であつて、實際の彼女等をもつと純い直感的な神經を持つてゐる。笑の玉國に出てゐる女子は僕の好きなレヴェニー・ガールの一人であるが、彼女もうちか頭では大分歳をとつたらしく逢ふと誰か眞面目な人と結婚したいと云つてゐる、表面は遊々しいほどはなやかであるが、内容の少しもない舞臺生活に愛想つかしたのかも知れない。だが、顔は角子子好き第一の豊饒な肉體を見たらしらどんな男でもフラフラとなら

の度び轉戦萬里山河を越へて過るの戰闘に参加其の後に度かの殘敵掃蕩に未だかすり傷一つ受けず健在なれば他事ながら御休心下され度候、只今警備致し居ります處はまつたの山の中に當處日中の曇きは百四十度近く下帯一つにて居る有様で御座います、日の中はお話にならぬ程蠅の多い事、夜は蚊の居る事、悲となく夜となくかれらの猛攻撃はチャン兵よりも一段と辛う御座います。當地にてはそこそこ谷間の稻穂黄色に美しく盛りつ花、胡麻の花も盛り御座います、故郷にては山の物、海の幸が町々にみちあふれて色とりどりの優美な姿を、どけた顔、可愛い、顔を行儀よく店々に左らんで居る事、御座います。山の中最新前に南風、茄子汁を啜る事に遠き祖國日本の思ひ出がたまはまなくわき出る泉のようにつきからつきへと銃砲聲の遙か彼方よりこたまし渡りつづけるを耳にし、最新線より御無沙汰お詫言々御一報まで申上ります。かじこ

すには居られないであらう。その割に性格はあつさりしてゐる如くない。

この間も金龍館横を五六間仲見世の方へ上つたところに藤永の喫茶部で、偶然女子に逢つた。夜の十時頃である。今難波が終つたところらしく彼女は疲れた顔をしてゐた。彼女は僕に云ふ。

「あ、早く結婚したい。誰か好い人を世話してよ」と。

だが、女子さんよ、僕の知つてゐるサムライ共はみんな金のない奴等ばかりでしてねえ、金もつてなんともはや情なき次郎なのである。

甘い夢など彼女たちは殆んど持つてゐないやうである。だから彼女等は戀愛に對しても僕にハツキリしてゐる。僕の或る友人が、笑の玉國に出てゐる踊り子に惚れて、結婚を申込んだところ、彼女はいきなり「貴男はいくら月に収入があるんですか?」ときいたさうだ。

さすが僕の友人もこの遊藝には驚いてゐるらしいが、それでも七十圓とか八十圓とか答へたらしい。すると、彼女は「それぢや私のドレスも買へないわ」と云ひ、僕の友人の申出をあつさりことわつたさうである。

ふのはあまりうまく行かないやうである。お互ひが自分たちの生活をあまりよく知りすぎたところから、我儘が生じてゐる。だから同棲して二三月もすると、ぢき別れるやうな事になつてしまふ。これは現代の喫茶ガールと大學生によく似てゐる。しかし、喫茶ガールの戀愛よりせ、レヴェニー・ガールたちのそれの方がずっと眞面目だ。彼女等は生活と云ふと眞面目に申出をあつさりことわつたさうである。

